

サツキ 晴れ

Satsuki bare

2023 No. 11

CONTENTS

- 01 Cure病気のおはなし
- 02 Care療養支援のおはなし
- 03 地域医療を知ろう
- 04 連携病院・診療所紹介
- 05 めまいの検査について
- 06 みよし市民病院を支えるチーム紹介
- 07 みよし市民病院職員募集

院長
メッセージ

病気の早期発見に欠かせないのが、血液検査や超音波検査、心電図検査などです。ただこれらの検査は、自覚症状がないとあまり受ける機会はないかもしれません。そこで、今回の特集は検査課に焦点を当て、検査の広報活動に取り組む職員たちの姿を紹介しました。ぜひご一読いただき、ご家族の健康管理にお役立てください。

SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED plus+
病院を
知ろう

定期的な検査の大切さを伝え、理解してもらい、広める。

検査課特集



みよし市民病院
Miyoshi Municipal Hospital

07

INFORMATION

みよし市民病院 職員募集中!

みよし市民病院では、
私たちと一緒に地域医療に
貢献してくれる仲間を募集しています。
まずはお問い合わせください。



募集職種

看護師

資格 看護師の資格を有する人
年齢 昭和40年4月2日以降に生まれた人

看護助手

資格 介護福祉士の資格を有する人、または介護職員初任者研修修了者の資格を有する人
年齢 昭和40年4月2日以降に生まれた人

〈看護師修学資金〉制度もあります

みよし市民病院の看護師をめざす学生の皆さんに、修学資金を貸与します。勤務年数に応じて、返還が免除されますので、ぜひお申し込みください。

お問い合わせ

みよし市民病院 管理課
TEL 0561-33-3300

詳しくは
こちら

みよし市民病院の理念 みよし市を愛し、みよし市民の健康に寄与することを誓います。

- 基本方針
- 1 患者さんの尊厳を重視し、公正な医療を行います。
 - 2 思いやりと、心のふれあいを大切にした医療を行います。
 - 3 常に医療の進歩に目を向け、質の向上に努めます。
 - 4 市民の皆さんに信頼される医療を行います。
 - 5 地域医療の向上を目指し、保健・福祉との連携を図ります。



病院広報誌 特設サイト

サツキ
晴れ

地域の皆さんや連携機関の皆さんと
「みよし市民病院」を情報で繋ぐ、広報誌連動型
コミュニケーションサイト。
ぜひご覧ください。[こちらから](#)



LINE(公式)アカウント

病院広報誌「サツキ晴れ」のLINE
(公式)アカウントを開設しました。QRコードから「友だち追加」をお願いいたします。



みよし市民病院
Miyoshi Municipal Hospital

〒470-0224 愛知県みよし市三好町八和田山15番地
TEL 0561-33-3300
<http://www.hospital-miyoshi.jp/>

サツキ
晴れ

発行責任者／院長 伊藤 治
発行／みよし市民病院 広報グループ
記事提供／中日新聞広告局
編集協力／プロジェクトクリント事務局
発行日／2023年3月



SPECIAL REPORT

定期的な検査の大切さを伝え、理解してもらい、広める。

検査課特集

市民の健康を守るために
検査課全員で広報活動に取り組む。

CHAPTER 01 手づくりの検査促進 ポスターやパンフレット。

「脈をとつて脳卒中・認知症・心不全を予防しよう」「みんなは、心臓超音波検査を受けましょ!」—みよし市民病院の院内を歩くと、壁面に貼られたさまざまなポスターに出合う。どれも印刷されたポスターとは違い、手づくりの温もり感が漂う。これららのポスターを作っているのは、検査課のメンバーたちだ。そのうちの一人、大坪洋子(臨床検査技師)に話を聞いた。「病気を早く発見するには、定期的な検査が欠かせません。のために、市民の皆さんに少しでも検査のことを知つていただきたいと考え、数年前からメンバーみんなで手分けしてポスターやパンフレットを手づくりするようになりました。どんな内容にするかは、スタッフそれぞれが検査のデータや患者さんの動向などを見ながら考えて、決めています」。

検査課で行つてある検査は、大きくわけて検体検査と生理検査の2種類。検体検査は採血した血液から貧血・肝機能・腎機能などを調べたり、尿中の細胞を顕微鏡で調べるもの。生理検査は、心電図や肺機能検査、心臓超音波などを指す。どの検査も専門性が高く、内容も日々進化しているため、市民からすると「知つているつもりで知らない」とも多い。「たとえば、動脈硬化の進行度を調べる検査があります。これは、手と足の血圧の比較(A-B-)や脈波

なりました。どんな内容にするかは、スタッフが見ながら考へて、決めています」。

検査課で行つてある検査は、大きくわけて検体検査と生理検査の2種類。検体検査は採血した血液から貧血・肝機能・腎機能などを調べたり、尿中の細胞を顕微鏡で調べるもの。生理検査は、心電図や肺機能検査、心臓超音波などを指す。どの検査も専門性が高く、内容も日々進化しているため、市民からすると「知つているつもりで知らない」とも多い。「たとえば、動脈硬化の進行度を調べる検査があります。これは、手と足の血圧の比較(A-B-)や脈波

BACK STAGE

自覚症状がないうちに 病気を早期発見したい。

●多くの病気は自覚症状がないうちに早期発見し、適切な治療を行うことで重症になったり、亡くなる人を減らすことができる。そのため不可欠なのは検査だが、忙しい日々に追われ、つい後回しにならがちだ。

●みよし市民病院の検査課の活動は、そんな人々の心の油断に訴えかけ、さまざまな切り口で検査の必要性を呼びかける。こうした取り組みが一つずつ実を結び、市民の健康に繋がることを期待して注目していきたい。



CHAPTER 02 検査の機会を増やして 病気の早期発見に貢献。

検査課の職員が広報活動に力を注ぐ背景には、偶然行つた検査で、思わぬ疾患が見つかることがあるからだ。「たとえば、眼科の手術の前に行つた心電図の検査で、心房細動(心房が細かく震えて脈が不規則になる病気)が見つかったり、骨折で入院された患者さんに重症の心臓弁膜症が見つかることもあります。それらは運よく見つかったケースですが、偶然の検査に頼ることなく、何か病気があれば早く見つけてあげたいと常に考えています」と大坪は話す。また、通院患者でも、主疾患に関係のない血圧や糖尿病ですつと当院に通つていらっしゃる方でも、心電図や心臓超音波検査は何年も受けていない、という方がたくさんいらっしゃいます。でも実は、糖尿病から動脈硬化が進み、狭心症や心筋梗塞を発症する事も多く、異常の有無を知るには心電

図検査が有効です。そういうことも市民の皆さんに知つてほしいですね」(水野)。

一方、市民にとっては、身近な市民病院の最新設備を使って、必要な検査をひとり通り受けられるメリットは大きい。「当院は大学病院などとは違つて、どの検査もご都合のいい日程で速やかに受けられる利点があります。たとえば、ホルター心電図検査(心臓の状態を24時間記録する検査)なども、予約でお待たせすることはほぼありません。また、先生と私たちとの距離が近いので、検査で何かあればすぐに先生に伝え、患者さんに丁寧に説明できる体制も整っています」と、大坪は強調する。さらに、水野は診療所との連携強化にも思いをはせる。「診療所の先生方も、当院の検査機能をもつと気軽に利用していただきたいと考えています。診察して何か疑わしい疾患があれば、検査を依頼してほしいですね。診療所の先生としっかり連携することで、市民の皆さんのが病気の早期発見に貢献していきたいと考えています」。

COLUMN

●高齢者に増えている病気には、心臓弁膜症がある。これは、心臓の中にあらに障害が起き、心不全の原因になる病気である。
●心臓弁膜症の発見に有効なのが、動きや動き、弁の状態などを調べるもので、被曝や痛みがなく、体への負担も少ない。「動悸や息切れ、足のむくみが気になつたら、心臓超音波検査を受けてほしい」と検査課の職員は呼びかけている。

CHAPTER 01

の伝わり方(PWV)を調べるものですが、動脈硬化のリスクの高い方には、ぜひそうした検査を受けていただきたいですね。もし検査で引っかかつたら、血管外科の先生に診察していただくような体制も整えていきますから」。そう話すのは、同じ検査課の水野茜(臨床検査技師)だ。日常業務に加えて、広報活動を行うのは大変ではないだけ。「大丈夫です。他部署の方から『検査をアピールしてくれて助かります』と言つてもうと、やりがいを感じますね。また、検査の広報活動は、私たちだけではなく、検査をアピールしてくれて助かります」と言つてもらつと、やがて感じますね。また、検査の広報活動は、院内の先生の監修を受けたり、事務のみんなにポスターの掲示を手伝つてもらつなど、他の部署の協力も得ながら進めていきます」と、水野は笑みを浮かべる。

Cure 病気の おはなし

物がかすむ、まぶしいなどの
症状が現れたら、加齢による
「白内障」かもしれません。

目の中には、水晶体といってカメラのレンズの役割をしている、透明な器官があります。この水晶体が、擦りガラスのように濁る病気が「白内障」です。

白内障を発症、つまり水晶体が濁る
と光の通りが悪くなり、物がかすんで二重に見える、まぶしく見える、視界がぼやけるといった症状が起こり、進行すると水晶体全体が濁っていき、視力の低下や、なかには失明することもあります。

水晶体が濁るのは、加齢により水晶体のたんぱく質が異常変質するためです。従って、年齢が高くなると白内障の罹患率は増加し、70~80歳代では、誰もが発症する可能性のある老化現象ともいえます。

**手術時間は15~30分程度。
患者さんの安心・安全のため、
1泊2日の入院治療を実施。**

白内障は、眼鏡やコンタクトレンズで矯正することはできず、回復を望む場合は、手術治療となります。点眼液はありますが、これは進行を少しでも遅らせる範囲に留まります。

治療に先立つ診断では、視力検査をはじめ、角膜屈折力、眼圧検査、眼底検査、眼軸長検査など各種の検査を行い、病型と程度、見え方、白内障



以外の目の病気の有無を確認する検査などを行います。

手術内容は、簡単に言うと、水晶体内部の濁りを取り除き、眼内レンズという人工のレンズに替え、光を通りやすくするというものです。時間は、15~30分程度。全身麻酔ではなく、点眼の痛み止めを使用しますが、痛みを訴える人はほぼいません。

なお、この手術は日帰りで行う医療機関もありますが、当院は患者さんの安心感、そして、術後管理、安全を考え、1泊2日の入院治療で行っています。



眼科
医長
竹中崇也

Message



加齢によるもの、他の理由によるもの、両方にきちんと対応。

加齢による白内障は、ある日突然起ころうではなく、徐々に水晶体が変化する病気のため、自分で気づかない人が結構いらっしゃいます。そのため物が見えにくいなどの症状を感じた場合は、早めに受診いただき、必要に応じて、手術治療をお受けになることをお勧めします。車の運転をはじめとする、普段の生活の質が大きく変わります。

なお今回は加齢による白内障をお話

しましたが、他にも、先天的なもの、アトピー、薬剤、放射線、あるいは、糖尿病などにより発症することもあります。そうしたケースでも、しっかりと対応することは言うまでもなく、もし当院での治療が難しい場合は、然るべき医療機関にご紹介するなど、適切な対応を取らせていただきます。物が見えにくく感じたら、少しでも早くご相談いただければと思います。



がん予防①

たばこを吸っている人は禁煙をしましょう。吸わない人も他人のたばこの煙を避けましょう。

Care 療養支援の おはなし

今回のテーマ

ケアマネジャー(介護支援専門員)

病気を治すだけ
じゃありません。

介護サービスを受けたい方と、
サービス提供者を結ぶ、
介護保険サービスのプロです。



**介護保険に関する
スペシャリスト。
生活向上に必要な
ケアプランを作成します。**

ケアマネジャー(介護支援専門員)は、介護を必要とする方が介護保険サービスを受けられるように、ケアプラン(サービス計画書)の作成や介護サービス事業者との調整を行う、介護保険に関する専門職です。

主な役割は、要介護・要支援の認定調査(市区町村から委託)、認定された人の心身状況、生活環境に合わせ、生活の向上に必要な介護サービスの種類や内容などを定めたケアプランの作成、関係者への交付など、介護を必要とする人とそれを支援する人を繋いでいきます。

**3種類のルートから出会った
ご利用者とご家族を、
全力で支援していきます。**

当院では、併設のみよし市訪問看護ステーション居宅介護支援事業所があり、大きく三つのケースからご利用者のケアプラン作成を行っています。

一つ目は、入院患者さんが退院後に介護サービスを必要とするケース。二つ目は、当院に設置されるみよし地区地域包括支援センターを介して、要支援サービスをお受けの方が、要介護に



切り替わった際に引き継ぐケース。そして三つ目は、近隣の大規模病院を退院される患者さんの紹介を受けるケースです。

院内ルートの場合、ケアマネジャーのなかには長年、病棟看護師を務めた者もいて、入院中の患者さん、ご家族の状況や希望をしっかり把握することができます。院外からの場合は、往診や訪問看護業務も含めての支援であり、医療依存度の高い方々の需要にも対応するなど、いずれの場合も全力で支援を行っています。



Message



みよし市訪問看護ステーション
居宅介護支援事業所
ケアマネジャー・看護師
有松明子・岩井瑞穂



がん予防②

生きがいのある楽しい生活を! 体力・知力・意欲を支えます。

私たちは、ご自宅で介護サービスを受けたい方を支えています。人は、何歳になつても、生きがいがなければ、本当に楽しく過ごせないと思います。私たちは介護サービス提案だけでなく、ご本人がサービスを使うだけでなく、その方の生きがいと一緒に見つけ出していくような、そんな関係づくりを大切にしています。また、体力と知力の老化は、自他ともに気づきやすいこと

ですが、意欲の老化には、ご本人にしか解らないことがあります。そうした方に、小さくても日々の目標を持ていただける介護の実現をめざしています。

みよし市にも、高齢で独居、また、ご夫婦だけの方が増えてきました。今後は医療と福祉と介護、さらには地域全体で支え合うことが不可欠。これらの領域の関係者への働きがけができたらと考えています。

地域 矢療 (を) 知ろう

地域
先生方へ

当院の診療・検査予約が24時間 オンラインで可能になりました。

当院では、2023年2月1日より、病診連携用インターネット予約システム「e連携」の運用を開始しています。本システムでは、診療や検査の2カ月先までの空き状況を画面に表示し、予約票も出力できるため、先生の患者さんをお待たせすることなく予約が完了します。ご利用は24時間可能で、診療外や土日祝日でも予約(※)・変更・キャンセルができます。診療情報提供書の送付は、後日でも構いません。当院の持つ医療資源を有効にご活用いただくために、ぜひご登録をお願いいたします。なお、本システムは、トヨタ記念病院・豊田厚生病院・豊田地域医療センターとも連携しており、1つのアカウントで4病院の予約が可能。4病院共通のIDとパスワードで、活用することができます。

※「e連携」でのネット予約は、2日前までとなります。

今回のおはなし

e連携運用 開始



ご活用
ください

ぜひ、ご登録ください!

ご登録の際は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。地域連携室・医療相談室にてIDとパスワードを発行しご利用方法をご案内させていただきます。

お問い合わせ先

みよし市民病院 地域連携・医療相談室
TEL 0561-33-3318 FAX 0561-33-3302
Mail renkei@hospital-miyoshi.jp



Our Partner

連携病院・診療所紹介

鈴木内科クリニック



漢方治療と西洋治療の利点を活かし
子どもから高齢者まで
幅広い患者さまに対応しています。

当院は、愛知県みよし市、豊田市エリアの医療機関でも数少ない、漢方を取り入れた内科診療を行うクリニックです。漢方治療と西洋治療のそれぞれの利点を活かした診療で、一般内科、小児科、循環器科、呼吸器内科、肥満外来、糖尿病等に対応。初診の方には特に時間をかけてじっくりと診察をし、こちらから押しつけるのではなく、患者さまと相談しながら一人ひとりに合った治療を行っています。私たちが心掛けているのは、常に患者様に寄り添える診療です。子どもから高齢者まで幅広い患者さまの地域のかかりつけ医として「丁寧な説明」を信条に、正確な診断かつ治療をめざしています。どんな小さなことでも気がかりなことがあれば、ぜひ相談してください。

DATA 鈴木内科クリニック

〒470-0201 みよし市黒笹町下田3-1
TEL 0561-36-7373
URL <https://www.suzukinaikaclinic.com/>



がん予防③

太りすぎず、やせすぎず、適正な体重管理を。日常生活を活動的に過ごしましょう。

TOPICS

めまい・ふらつきの原因を、簡単な検査で調べませんか?

耳の影響か、脳の影響か、突発性のものか…。
めまいの検査機器を新たに更新しました。

私たちの身体には、身体の安定を保つ仕組みとして、平衡(バランス)機能があります。この機能が障害を起こすと、めまいやふらつきが生じます。障害が起こる原因はさまざまですが、その原因を知り適切な治療を受けることが大切です。

当院では、めまいの検査機器を新たに更新。より精度の高い検査を短時間で受けていただくことができます。めまい・ふらつきが気になる方は、まずは耳鼻咽喉科にご相談ください。



患者さんは検査台の上に乗るだけで、
検査時間は約5分です。

めまいの検査してみませんか?



STEP01 重心動揺検査方法

- ①検査台の上で足を閉じて静かに立ちます。
- ②目を開けて静止した姿勢のまま1分間
- ③目を閉じて静止した姿勢のまま1分間

STEP02 ラバー負荷検査

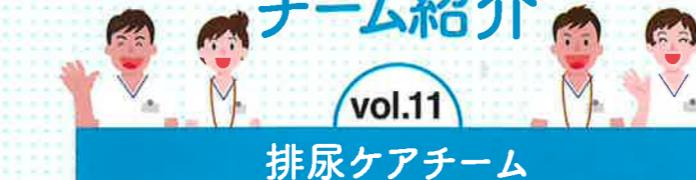
- ①検査台の上で踵を揃え30°開脚立ちします。
- ②目を開けて静止した姿勢のまま30(または60)秒間
- ③目を閉じて静止した姿勢のまま30(または60)秒間

めまい・ふらつきで心配な病気(例)

●耳疾患	●脳血管障害
・メニエール病	・脳梗塞
・突発性難聴	・脳出血
・前庭神経炎	・慢性脳循環不全症
●血圧障害	●その他
・高血圧	・頸性めまい
・低血圧	・心因性めまい
・起立性低血圧	・自律神経失調



みよし市民病院を支える チーム紹介



生活の質の向上を見つめ、排尿に関する
問題について支援していきます。

排尿ケアチームは、令和4年7月に結成されました。病気や治療のため尿道カテーテルを使っている入院患者さんを対象に、より早く尿道カテーテルを外し、尿路感染の予防を始めとする適切な排尿ケアを実施。さらに、自立による排尿の実現を支援することにあります。

排尿ケア自体は、これまで病棟看護師が担っていましたが、医師・看護師・リハビリ・訪問看護スタッフの介入により、専門的な知識を持って排尿ケアを行っています。



いわばこれまでの病棟看護師の排尿ケアを後押しすることで、早期の退院を促すとともに自宅に帰ってからの排尿自立サポートなど成果を挙げています。

チームが誕生してまだ間もないことから、現在は前述の患者さん中心ですが、今後は、尿漏れ、頻尿、尿失禁など、何らかの排尿障害を抱えている方にも対応し、ご本人の生活の質向上は言うまでもなく、ご家族の負担軽減に結びつく活動に広げていきたいと考えています。



がん予防④

定期的にがん検診を受けましょう。早期発見・早期治療のチャンスを逃さず。